



第12回HANDA CUPプロボウリングマスターズ

6月17~19日 品川プリンスホテルBC



▲優勝決定戦は圧巻のストライクラッシュで269。「ROUND1 CUP2010」以来12年ぶりの通算2勝目を挙げた水野は、観戦に訪れていた愛息・優亮さん(水野耕祐=59期=の双子の弟)とともに、弾ける笑顔で記念撮影に応じた(優勝ボール:コロンビア300<レジェンズスター>スピード)

水野成祐が12年ぶりの復活V2!

得に燃える坪井実(36期/60歳)。水野は「坪井君はレフティなのでビッグゲームの勝負になる。一球も気を抜けない」と気を引き締めると同時に、「決勝のレーンはRRのときからオイルが少なく感じていた上、ステップラダー前の練習ボール時にはすでに変化していたので、優勝決定戦はどうなることかと」と、一抹の不安も抱いていたという。

だが、それは杞憂に終わった。水野は9本スペアスタートの後、2フレから怒とうのストライクラッシュ。厚めや薄めに入った投球もピンアクションに助けられて10本すべてを払い続け、8フレまで7連発。対する坪井は「思った以上に遅くなっていた」左レーンのアジャストに手間取り、7フレまでダッチマン。右レーンのストライクも8フレで途切れ、勝負はそこで決した。

10フレもパンチアウトで締め、269のハイスコアで12年ぶりに公式戦のVゴールを切った水野は万感のガッツポーズ! 直後の優勝インタビューでは「トップシードで残ることがで



▲左からSISPS半田脩時副会長、優勝・水野、2位・坪井、3位・酒井、4位・呉竹、ベストアマ(総合10位)・袖之昭選手、JPBA谷口健会長

コロナ禍で一昨年は中止、昨年は無観客・プロのみでの開催。今年、3年2大会ぶりに本来のフォーマットで行われた男子シニア公式戦のプロボウリングマスターズは、同大会で過去3回準V実績のある水野成祐(24期・ニューパールレーン武里/61歳)が悲願の初優勝を飾り、12年ぶりに通算2勝目を挙げた。(主催:(公社)日本プロボウリング協会/(一社)国際スポーツ振興協会)

☆
今大会にはプロ102名・アマ145名の男子シニアボウラー

が出場。10Gトータル2228の11位で予選を突破した水野は、続く準決勝5Gで5位まで順位を上げて決勝ラウンドロビン(RR)に進出した。

上位12名によるRRではさらに調子上げ、9勝3敗と大きく勝ち越し。ひとり4ケタのポイント(+1063)を挙げてトップシードを獲得し、大会初制覇へ大きく前進した。

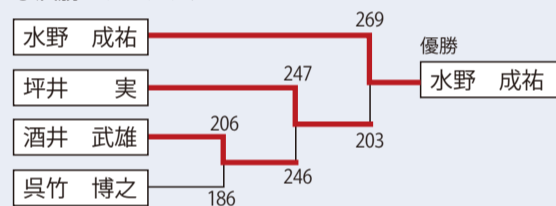
優勝決定戦の相手は、3位決定戦で大会連覇のかかる酒井武雄(9期/70歳)に247:246と1ピン差競り勝った余勢を駆って悲願の初タイトル獲

きて、なおかつこんなにいいゲームで勝てたのは本当にうれしい。マスターズではこれまで2位が3回。ようやく優勝できたので、これを弾みに秋からのレギュラーツアーでも上位に食い込めるように頑張りたい」と声を弾ませた。

数年前に腰椎ヘルニアを患い、その後遺症で今も右脚に感

覚障害が残っているという水野。バックスイングの大きい往年の投球フォームは影を潜めたが、歴戦のキャリアで培った投球術は健在だ。昨年デビューし、瞬く間に2勝を挙げた愛息・水野耕祐(59期)にも今回の勝利で再び肩を並べた。秋のレギュラーツアーでの「親子競演」が楽しみだ。

●決勝ステップラダー



FOCUS UP

武田竜・日本ボウリング場協会新会長に聞くアフターコロナへの戦略



(公社)日本ボウリング場協会が主催するBOWLEX JAPAN 2022は、6月3日から5日まで長野県で開催されたが、その会期中に行われた定時総会で、武田竜氏が新会長に選任された。長引くコロナ禍で傷ついた業界をどう立て直すのか、その戦略をお聞きした。

☆
—6期11年務められた中里則彦前会長からバトンを引き継ぐことになりました。非常に身の引き締まる思い

です。全国どのボウリング場も、新型コロナウイルスの影響を少なからず受けています。もちろんコロナの影響だけではありませんが、2019年から64センターが閉鎖しました。私ができることは限られていますが、コロナで傷ついたボウリング界を、いかに元気にできるかが課されたテーマだと思いますし、やれる限りのことをやっているとと思っています。

—日場協に期待される役割を、どのようにお考えですか。

大会などの事業を日本全国でやろうといっても、地域格差があってなかなか難しい。だから事業は県単位、あるいは関東や東海というような単位でやっていただいて、日場協ではいかにボウリングをアピールしていくかという広報活動を中心にやっていきたい。既存のメディアの活用もそうですが、インスタグラムやツイッター、フェイスブックなどは費用がかからな

い。すでに多くのセンターが活用していると思いますが、どこでだれが見ているかわからないので、全国のセンターに動きかけて積極的にボウリングを発信していきたいと思っています。

—通常営業になって、お客さんは戻ってきていますか?

緊急事態宣言発出時はもちろん、最初のころは足が遠のきました。一定の期間が経ってからは、私のセンターでもリーグ戦等でボウリングが生活の一部になっていたようなボウラーは、ほぼ戻ってきてくれました。だから本当にボウラーに支えていただいたというのが実感です。その一方で、一般のお客様はなかなか戻っていただけていないです。また団体予約は、全国どこのセンターも厳しい状況です。例えば会社のコンペでボウリングに行っても、もしコロナ陽性者が出たらとか、日本人はそういうところを気にするので、予約が戻ってくるのはもう少し先かなと思います。

—シニア層の開発は、健康ボウリング教室等、確立されたシステムがあって実績を挙げたいと思いますが、ジュニアや若者層の開発はいかがですか。

今、中学の先生の負担を減らすために、クラブ活動を外部委託しようという流れがあります。今年の7月ぐらいにまとめて来年から実施したいというのがスポーツ庁の意向で、それにボウリングを入れたいというのが私の願いです。



▲定時総会にてBPAJ新会長に選出され、あいさつする武田氏(6月4日、ホテルメトロポリタン長野)

—笹塚ボウル(東京都渋谷区)では、今年4月から先行して行っています。

そうですね、いいモデルケースになっています。都心の笹塚ボウルさんだから…という声もありますが、そうではなくて中学校が近くにあれば、全国のセンターで食い込む余地があると思います。部活動自体では収益につながらなくても、休みの日

に練習に来たり、親御さんと一緒に来て投げたりという相乗効果もあると思います。また公益社団法人という立場上からも、公益性のある事業を行う意義があると思います。

—社会生活もようやくウイズコロナからアフターコロナへの転換期にあるようです。

これからは日場協でもアフターコロナを見据えて施策を打っていかねばいけないと思います。何をやるにもお金がかかるので、まずはスポンサー開拓に取り組みたい。そして先にも触れましたが、どこのセンターも団体予約が回復してなくて苦勞されているので、そこをなんとかしていきたい。ボウリングは年齢、性別関係なく一緒に楽しめる、こんなに親睦に向いているスポーツはないと思うし、企業コンペなどにはもってこいなんです。そのアピール、そして仕掛けを考えるのが喫緊の課題です。

ただけりゅう/1969年12月16日生まれ、千葉県出身。株式会社Star Like代表取締役。アイビーボウル越谷(埼玉県越谷市)とSTAR LIKE BOWL(茨城県龍ヶ崎市の2センター)を運営